

【特選】「給食マジック」

桜林小学校 稲垣 彩佳

「この子はどうなっちゃうんだろう。大丈夫かな。」  
わたしが保育園に入るまでお父さんとお母さんはいつもこう心配していたそうです。わたしが小さいころは好ききらいがひどく、うどん以外はほとんど食べなかつたそうです。

そんなわたしが保育園に入園した時、一番の両親の心配は給食のことだったそうです。お母さんはおむかえのとき先生に

「今日の給食食べれましたか。」

と確認するぐらい気にしていたそうです。そのうち少しずついろんなものが食べられるようになり、食べられる量も種類も増えていきました。

「きつとお友だちとワイワイ楽しくおしゃべりしながら食べるから、おいしくたくさん食べれるようになってきたんだね。」

お母さんがうれしそうに言ってくれました。

小学校に入学してからはもつともつと給食が好きになりました。あんなに食べなかつたわたしが、給食じやんけんに参加するようにもなりました。給食じやんけんとは余った給食をおかわりしたい子が集まってじやんけんして勝った子がもらえるというものです。給食じやんけんに参加できるのは、自分の給食を減らさない子だけなので、まず自分の給食を残さず全部食べ

てから参加します。最初はきらいなものがあると参加できるどころか、自分の分を全て食べ終わるのに必死でした。そんなわたしが時間内に余ゆうを持って食べ終え、じやんけんに勝てばさらに追加で食べるなんて、わたしもびつくりだし、お母さんもおどろいていました。

特にわたしのお気に入りはビビンバです。ビビンバの日は朝からテンションが上がってお昼になるのが楽しみになります。きらいな授業がある日でも、その日の給食がビビンバだとがんばって学校に行くことができます。他にはさばの銀がみ焼きの日は絶対に給食じやんけんは勝つ気まんまんに気分が盛り上がります。イカフライのレモン煮も好きで、この前給食のこん立て表に作り方がのっていたので、お母さんに作ってもらいました。うちでは初めてのメニューで家族みんな「おいしいね。」

と盛り上がりました。

わたしは給食はすごいなと思いました。あまり食べなかつたわたしをたくさん食べられるように変えたり、いやな気持ちや暗い気持ちを明るくしてくれたり、お友達との楽しい時間を作ってくれます。そしてわたしや友達だけでなく、学校の給食を食べられない家族にも新しい味を教えてくださいました。給食はいろんな人の気持ちを動かしたり、人と人をつなぐ素晴らしいものです。まるでまほうみたいな給食をこれからも楽しみにしていきたいと思えます。